

国見町は、千年以上育まれてきた国見の歴史・伝統・文化をこれから百年後に伝えていくため、これらを生かした「歴史まちづくり」を進めています。このコーナーでは町や地域が行っている取り組みについて、毎月お伝えしています。

【企画調整課地域振興係 ☎ 585-2967】  
【あつかし歴史館 ☎ 585-4520】



## コロナ禍に想う、私たちが先人から受け継いだもの。



おおかつこうじ  
今月は企画調整課の大勝宏二が報告します。

「おもしろく、ふくらむ風や鯉幟」 子規

子どもの健やかな成長を願う恒例の「あつかし歴史館こいのぼり掲揚」が中止となりました。また、健康や五穀豊穡を願う春季祭礼約30件が中止または神事のみとなったため、賑わいのない寂しい春が終わりました。

さて、今回の「歴史まちさんぽ」は町無形民俗文化財「内谷春日神社太々神楽」の保存会会長佐藤清二さん取材し、コロナ禍での伝統文化継承について考えます。

Q「太々神楽」は昭和33年に中断し、昭和57年に再開されて以来、昨年から2年連続の中止となりましたが、保存会の皆さまはどのような状況でしょうか？

今年は4年ごとの「神輿渡御」と毎年行われる「神楽奉納」が中止となりました。今年は盛大に実施したいと思い、1月から「神輿」の準備など早めに取り組んでいましたが、残念ながら3月に中止を決定しました。保存会のメンバーは非常に落胆しています。

Q「太々神楽」は毎年演じることで継承されてきたものですが、演じる機会が少ない状況で、継承に何らかの影響があるのでしょうか？

今演じている若い方のモチベーションが下がることが心配です。また「神楽」から心が離れてしまうのではないかと憂慮しています。継承者を育成するにあたっては「神楽」を見て、感じる事が非常に重要です。演じる機会がなくなるのは、次世代の継承者を確保する上で大きなマイナスです。

Q今後、「太々神楽」を再開する場合どのようなことが大切でしょうか？

半年ぐらい演じていないので、子どもたちは神楽を舞うことが不安になっているかと思います。また、保護者の皆さまもコロナ禍での練習や団体行動に不安があるでしょう。

できる限り神楽を演じる機会を提供し、感染予防対策を徹底しながら再開したいと考えています。



▲取材に答える佐藤清二会長



▲案内看板が新しくなりました

感染予防により様々な制限を受ける現在の生活で、先人から受け継がれてきた祭事や伝承が体験・実施できず、さまざまな事で苦悩する関係者の一端を伺うことができました。

コロナ禍の伝統文化継承において、今私たちは何をすべきか、どのようにすれば先人たちの想いを繋げるのか、もう一度思いをめぐらし今回のレポートを閉じます。

## 国見の輝き人 ～国見町で活躍する人を紹介～ vol.17

今回は、国見町観月台公園管理会の委員として平成12年から現在までの21年間務め、平成30年からは同会の会長として観月台公園の美化活動に尽力されている佐藤三男さんにインタビューをしました。



きとうみつお  
佐藤三男さん  
(錦町)

一公園管理会の活動内容について一

毎月1日と15日の朝6時から7時過ぎまで、公園内の清掃や植栽整理などの環境美化活動を行っています。また、活動日以外にも委員がそれぞれ個人的に活動を行っていて、6・9・12月には、総務課財政係の職員と協力し、普段の活動ではできない枯れ枝の整枝作業や、大がかりな草刈り作業なども行っています。

一活動に対する思い一

公園を訪れた方たちに、きちんと整理されたきれいな環境の公園を見てもらいたいという思いが大きいです。桜の季節にはたくさんの方が訪れ、「町の中にこんな素晴らしい公園があることに驚いた。」とか、「大きな公園なのにきちんと環境整備されている。」という言葉かけられることがあります。そのような時にやりがいを感じ、活動を続けていかなくてはという気持ちになります。

一今後の抱負について一

年齢のことも考えなくてはならないが、今後も可能な限り活動を継続していきたいです。公園内の植え込みの整枝など、環境整備を中心に組みたいと思っています。特に、年数の経過により立ち枯れしている桜の木があるため10年後、20年後を見据えて新たな桜の木を植樹したいと考えています。

すずき そうすけ

ししど かんた

わたなべ みゆ

はらだ すずは

くにみ幼稚園 (年長組)

心なみぞうたち